



## JICA 草の根技術協力事業

「南部における科学的根拠に基づく患者中心の保健サービス向上：

大学と医師会の連携イニシアチブ」

# 疫学研修Ⅶ - 2 報告書

ホーチミン市医科薬科大学

2017年8月

## 1. 研修日程と内容

Date	Morning(9:00-12:00)		Afternoon(13:00-16:00)	
	Lecture 1		Lecture 2	Group project
August 5	Opening Dr. Goto (Course description, basic statistical tests)		Koriyama (Multivariable analysis)	Review of past projects
August 6	Dr. Otani (Qualitative research development)		Dr. Otani (Cont.)	
August 7	Dr. Otani (Qualitative data analysis)		Dr. Otani (Cont.)	
August 8	Dr. Yokokawa (Analysis of clinical data)		Dr. Goto (Text mining)	Review of past projects
August 9	Examination	Group presentation Closing	(Staff meeting)	

## 2. 活動記録

### 8月4日（金） 第1日目／移動日

時間	内容
10:00	大谷尚講師は名古屋空港からベトナム、ホーチミン市へ出発
13:35	Tan son nhat 空港到着
18:30	後藤あや講師、郡山千早講師、長谷川誠、渡邊一代の4名は成田空港からベトナム、ホーチミン市へ出発
22:30	Tan son nhat 空港に30分遅れで到着
23:45 -0:30	後藤あや講師と大谷尚講師は打ち合わせ

### 1日目（移動日）の感想

無事にベトナム、ホーチミンに到着することが出来て良かったが、移動時間が長くて身体は疲れた。長谷川さんは、初めての海外で飛行機搭乗も初めてという事で緊張した様子であった。

【渡邊】

## 8月5日（土） 第2日目／研修1日目の日程

時間	内容	記録
9:00	Opening 司会進行：Khoa Tuan Vo 先生 挨拶：後藤あや講師 Do Van Dung 副学長	参加者：77名（越側スタッフ5名を含む） 受講生は、主に医師、医学生、薬学部学生
9:20 -12:15	Lecture 1: 後藤あや講師 Course description	本コースの主な内容と特徴 内容：①量的分析（統計学） ②質的分析 特徴：講師と受講生が双方向の講義と演習を交えた Active Learning 形式
	Basic statistical tests Hypothesis testing	講義は英語で、通訳はなし。 統計手法の基礎と OpenEpi を使用した演習。 受講生は時々英語の解釈と講義の内容をベトナム語で確認しながら取り組む。
13:35 -14:10	研究紹介：長谷川誠さん Identification of factors governing disaster prevention 進行：後藤あや講師	発表 13分、質疑応答 17分 7名より質問あり、活発な討議をした。
14:15 -16:40	Lecture 2：郡山千早講師 Multivariable analysis in clinical epidemiology	講義は英語で、ベトナム語の通訳がつき、順調に進行。
16:40 -16:50	まとめ：後藤あや講師 本日のキーワード	Design ・ Confounding ・ Interaction Analysis ・ Stratification ↓ ・ Multivariable analysis (linear, logistic) Propensity score matching
18:00 22:00	横川博英講師成田空港からベトナム、ホーチミン市へ出発 Tan son nhat 空港到着	

### 2日目／研修1日目の感想

午前中は、後藤先生が質的研究の必要性や今回のコースの概要などについて述べられた。後藤先生は、様々な質問を受講生にしており、一方的に教えるというよりも相互に学ぼうといったスタイルで、受講生のモチベーションも高かったように思える。午前中の最後には、OpenEpiを使用した統計分析の演習をグループに分かれて行った。私のグループでは、OpenEpiを使ったことがあるのが私だけであったが、私も使い方をすっかり忘れており、演習に戸惑った。

【渡邊】



研究について 20 分ほどのプレゼンを行った。英語での発表は初めてでとても緊張した。(海外に行くのも、飛行機に乗るのも初めてであった。) 発表後は、研究の限界などについて質問いただいた。その後、郡山先生がロジスティック解析についてお話しされた。内容はいささか難解で通訳をつけての講義となった。途中でわからないところがあったら質問できるスタイルで、受講者はすぐに質問をして、積極的に学んでいた。

【長谷川】



多くの参加者は開会式の前に着席していたが、講義中にも増えていった。遅れた理由を聞いたところ、当日に友人やネットで情報を入手して急きょ参加したとのことで、この研修への関心の高さと需要を感じたと同時に、勉強熱心さを感じた。

講義中は、参加者の多くが集中しており、スマホやコンピュータの画面を見ながら講師の話を聞いていた(今回の研修はペーパーレスであり、資料は全てインターネットで閲覧形式)。

午前中の講義は統計学の基礎であったが、午後の講義は多くの受講生にとってアドバンスの内容であったとのこと。

【渡邊】

### 8月6日（日） 第3日目／研修2日目の日程

時間	内容	記録
9:10	本日の講義についての説明 横川博英講師の自己紹介	参加者 60 名（越側スタッフ 5 名を含む）
9:30 -12:20	講義 1：大谷尚特別講師 Qualitative research development	質的研究の概要とその必要性 研究の進め方 講義はディスカッションが組み込まれており、活気があった。
13:40 -16:00	午前中の講義の続き Qualitative research development	

### 3日目／研修2日目の感想



大谷先生による質的研究に関する講義であった。質的研究はベトナムの医師・学生にとってのみならず、医療分野では新しい手法であった。私は質的研究に触れたことがほとんどなく、大谷先生の英語の講義についていくので精いっぱいだった。午後は、質的研究のデザインをつくるグループワークが課せられた。私のグループでは、睡眠の質とテストの成績に関係があるのではと考え、研究の方法を組み立てた。

副学長のユン先生もお忙しい中、終日興味津々に講義を聞かれていた。ユン先生を見て、自分もどんな立場になっても新しいことを学ぶ姿勢というものは忘れないでいたいと思った。

講義の最後には、グループごとに作った課題を紹介した。紹介したいグループを募るとみな我先にと手を挙げていた。受講者の積極性を引き出す大谷先生の講義に感動した。

【長谷川】

質的研究はこの研修では初めての開催であったこともあり、受講生は講義をまじめに受講していた。また、ディスカッションの時間は活発で多くの意見が出されていた。研修初日から感じていることだが、こちらの受講生は皆が仲良くて4人掛けの椅子に5人で座っているところも散見され、周囲の受講生との意見交換も多いように思われた。

【渡邊】

## 8月7日（月） 第4日目／研修3日目の日程

時間	内容	記録
9:20	本日の講義についての説明	参加者 62名（越側スタッフ 5名を含む）
9:30 -12:10	講義 1：大谷尚特別講師 Qualitative data analysis	SCAT についての説明 SCAT を使ったの演習と発表
13:40 -16:10	午前中の講義の続き Qualitative data analysis	
(8/8) 0:05	大谷尚特別講師は Tan son nhac 空港から帰国	

## 4日目／研修3日目の感想



本日は質的研究の具体的な分析方法（SCAT）について大谷先生から講義をいただいた。午前中に SCAT の説明を受けた後、与えられた課題（患者のインタビューの書き起こし）を実際にグループごとに SCAT で解析をした。

課題は更年期を迎えた女性の不安に関するものであった。私たちのグループでは、患者の自己効力感などに着目して解析を進めた。英語での課題であり専門用語など分からないものは仲間と相談したり辞書を引いたりと苦労した。最後にいくつかのグループが解析について発表をして、私たちのグループや日本の教授陣で構成したグループなどが発表した。解析するにあたって注目した点がグループごとに様々であり、発表会をすることで視野が広がった。

【長谷川】



SCAT の演習を日本側スタッフでチームを組んで行った。理論を学んだ直後に演習を始めたが、“データの中の着目すべき語句”から次の“言い換えるための語句”と“説明するための語句”のところでは何の語句にするか非常に悩んだ。

【渡邊】

## 8月8日（火） 第5日目／研修4日目の日程

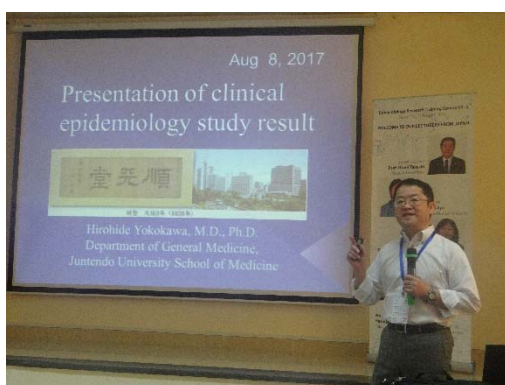
時間	内容	記録
9:15	本日の講義の説明	参加者 54 名（越側スタッフ 5 名を含む）
9:20 -11:50	講義 1：横川博英講師 Analysis of clinical data)	講義と演習、発表 午前中は基本的な統計分析について 午後は多変量解析を含む分析の解釈
13:40 -14:40	午前中の講義の続き	
14:45 -16:10	講義 2：後藤あや講師 Text mining 質的データの量的分析	講義と演習 KHcoder を使った演習と発表

## 5日目／研修4日目の感想

本日は、とうとう講義は最後である。午前中には横川先生から臨床疫学に関する講義があった。講義はロジスティック解析などの分析の演習が中心であった。我々のグループでは、有料の統計ソフト（STATA など）を持っている者がおらず、多変量解析がうまくできなかったのが代わりに層化分析を用いた。また、演習中にうまく英語でコミュニケーションが取れず、グループのメンバーに迷惑をかけてしまったので、英語でのコミュニケーションも今後スキルを磨きたい。

午後の最後は、後藤先生による KHcoder の演習があった。各グループで KHcoder を使い課題の文章を解析した。言葉遊びのような要素も解析の中にあり、参加者も楽しそうであった。

【長谷川】



## 8月9日（水） 第6日目／研修5日目の日程

時間	内容	記録
9:25 -10:10	Examination と正解の発表 Course evaluation	参加者 53 名（越側スタッフ 5 名を含む） 試験の時間は 15 分／人。遅刻者は約 10 名。
10:15 -12:05	昨年参加者による研究発表 (7 グループ) 発表に対する講評	発表 15 分／G（質疑応答を含む）
12:05 -12:15	Closing	成績優秀者の表彰 20 点満点 2 名、19 点 6 名
13:20 -14:30	Summary meeting	
18:00 -20:10	郡山千早講師、渡邊の 2 名は ハノイへ移動	ハノイホテル泊
23:25	横川博英講師は Tan son nhat 空港から帰国	

## 6日目／研修5日目の感想

試験が行われ自分も受験した。試験内容は講義資料からすべて出題されていた。受験者は約 50 名（日本人学生 2 名含む）で、満点は 2 名であった。成績優秀者には常連の受講生も含まれており、このコースの人気が高い事を再確認した。私は本当の得点は知らないが思っていたより解答できたのが嬉しかった。【渡邊】





## 8月10日（木） 第7日目の日程

時間	内容
8:20	後藤あや講師と長谷川誠さんが Tan son nhat 空港から帰国
10:00 -12:00	ハノイ公衆衛生大学へ訪問：郡山千早講師、渡邊一代の2名 面会者：Bui Thi Thu Ha 学長、Huan Dang The (Laboratory Center 長)、 Linh Dang 博士
14:00 -15:00	JICA ハノイ事務所にて活動報告：郡山千早講師、渡邊一代の2名 面会者：小林龍太郎（次長）、今野瞳、宗像哲平、Trinh Thuc Thanh Thuy, Vu Quynh Trang（敬称略） 会談の詳細は郡山千早講師の報告書を参照の事
19:30	渡邊はハノイからビン市へ移動
(8/11) 0:05	郡山千早講師はハノイ Noibai 空港から帰国

### 第7日目の感想



ハノイ公衆衛生大学はハノイ市郊外にあった。昨年の12月に新校舎に引っ越したばかりで現在は夏休み中という事で人影がなく立派な数棟の建物が建っており、庭のようなフリースペースも広がった。我々は主に検査棟の見学をしたが、新しい建物と室内に新品の機材が整然と並んでいた。これからのベトナムの公衆衛生の環境検査などにも活用される事をお聞きして、今後の環境改善にかなり貢献する場所になるのだろうと想像した。



JICA の事務所における活動報告では JICA 側は5名の関係者が着席したので、このプロジェクトに対する関心の高さを感じたが、同時に、このプロジェクトの効果をもっと理解してもらう工夫が必要だと感じた。

【渡邊】

## 8月11日（金） 第8日目の日程

時間	内容
10:30 -11:30	ゲアン省 MCH/FP センター訪問：渡邊一代 面談者：MCH/FP センター副所長 Dr. Kieu、他9名の医師、助産師、検査技師 JICA リプロダクティブヘルスプロジェクトのその後について報告を聞いた。渡邊からは、ホーチミン市で行われた統計・疫学の研修コースについて説明をし、プロジェクトで作成したテキストを Dr. Kieu へ進呈した。
12:00 -13:30	面談者：ゲアン省医科大学看護学教員 Dr. Nga、前 MCH/FP センター所長 Dr. Chi 渡邊からは、ホーチミン市で今回行われた統計・疫学の研修コースについて説明し、プロジェクトで作成したテキストを進呈した。Dr. Nga は公衆衛生についても教授しているという事で高い関心を示した。また、Dr. Chi は現在病院勤務ではなく、ゲアン省全体の管理関係という事で事業への関心が高かった。受講についてはホーチミン市までの経費などが気になるようであった。

### 第8日目の感想

本日は以前のプロジェクト仲間との再会ができて嬉しかった。また、その場に参加できないメンバーのビデオメッセージも作成してくれており、びっくりしたが大変感謝した。統計や疫学に関しては、とても興味がある事に喜びを感じた。ハノイ公衆衛生大学で使用しているテキストを見せたところ購入したいようであった。分かりやすいテキストの紹介も必要であろう。本日、ビン市は39℃で非常に暑かった。

【渡邊】



## 8月12日（土） 第9日目の日程

時間	内容
20:40 -21:30	ビン市からハノイへ移動
(8/13) 0:05	ハノイ市 Noibai 空港から帰国

### 第9日目の感想

今日も暑かった。本日は移動日で無事に帰る事も大事な仕事のうちであるが、仕事内容はクリアできたようで安心した。

【渡邊】

### 3. 全体を通じての感想

統計学の研修は復習の機会になり、質的研究はそのアプローチ法が新しく興味深く学べた。今回はプロジェクトアシスタントの役割であったが、講師陣のチームワークは日越両方が良く相互の信頼関係があり、プロジェクト運営のあり方についても大きな学びであった。また、研修後はハノイ公衆衛生大学と JICA 事務所の訪問に同行し、プロジェクト成功のための連携の重要性も学んだ。コースの終盤には以前に実施していた JICA プロジェクト・カウンターパートへ研修について説明する機会があったが、皆のその関心の高さに驚きこの研修がベトナムにおいていかに必要とされているかを痛感した。今回はこのような機会に恵まれた事に感謝すると共に、多くの学びを今後どのように活かしていけるのか思案している。

【渡邊】

今回のコースでは、統計学について今まで勉強してきた知識を再確認するとともに、質的研究など自分にとって新しい分野の学びを得ることもできた。一緒に学んだベトナムの医師・学生はとても熱心で、彼らに感化されて慣れない環境での講義にも取り組むことができたのだと思う。自分の学びを手助けしてくれた方々への恩返しの意味も込めて、今後研究に取り組もうと思う。

【長谷川】

### 報告担当者

長谷川 誠（福島県立医科大学医学部5年生）

渡邊 一代（福島県立医科大学医学研究科博士課程（国際地域保健学））